

言う。また、カルロ7世は人民の心変わりに抗い得ない自分を嘆く。

ジョヴァンナは群衆からも見放され、故郷ドンレミ(現在地図上ではドンレミ・ラ・ピュセルに改名されている)へ帰る途中、アルデンヌの森で雨宿りをしていた時、イギリス軍に捕まり、即、火刑台が準備される。

### 第三幕・・・イギリス軍の陣営

“フランス人だ”と歩哨たちの叫び声。カルロ7世、自ら部隊の先頭に立ち敵陣へ。ジョヴァンナは鎖につながれている。そこへ父親ジャコモが現れ、わが娘が鎖につながれているが、フランスの為、国王の為、神に祈る敬虔な姿を見て、自分が行ってきたことを後悔し、感動し、鎖を解きはずす。お前は自由だ！ジョヴァンナは父親の励ましを受け、再び戦場へ。

ジョヴァンナの勇敢な戦いの結果、フランス軍はイギリスの陣営を占拠する。そこへカルロ7世が現れ、再び彼女に救われた、それなのに自分は誤った判断をした民衆から救えなかったことを後悔する。又、父親ジャコモが物陰から現れカルロ7世に前非を悔い、許しを乞うたので王は許す。

そこへデリルが現れ戦況を報告する。“敵は崩壊しましたがジョヴァンナは戦死しました。”カルロ7世は驚愕、悲嘆にくれる。兵士たちがうな垂れている中、倒れたジョヴァンナが運ばれてくる。

側にいたジャコモは娘が微かに息をしているのに気づく。そしてカルロ7世も「奇跡だ！」と驚く。ジョヴァンナは“わたしは邪悪な魔女ではありません。”と申し開きをする。“お前は天使だ！”とカルロ7世。父親ジャコモは“私の眼は霧に閉ざされていた”と後悔する。

ジョヴァンナは「神の国が開かれ、マリア様がわたしに話しかけておいでです。わたしに手招きされ、神の国でお待ち下さっております。」「黄金色の雲がわたしを天国へ連れて行ってくれます。」

悪魔は「天の勝利だ。我々は負けた。」と合唱する。人々は「あなたは、すべてのフランス人の心の中で永遠に生き続けるでしょう。」と言う。その声を聴きながらジョヴァンナは息を引き取る。カルロ7世はジョヴァンナの名誉を称え、軍旗でジョヴァンナの体を包むように命令する。終わり。

F・V・シラー(1759/11～1805/05)は戯曲「オルレアンの少女」を1801年に書きあげたが、史実と大きく違っているところは、先述の通りジャンヌは戦死するが、史実は異端審問にかけられ、異端者(異教徒で魔女)と断定。火あぶりの刑で死亡する。

ジャンヌ・ダルク・・・1412/01/06 ドンレミに生まれ～1431/05/30 ルーアンで没する。

ジャンヌは、「フランス軍を率いて勝利せよ、」との神の声を聴いたと言って、フランス軍の陣地にゆく。フランス軍参謀者たちの訝る中、救世主ジャンヌに自軍を任して、兵を率いてオルレアンの戦場へ。神々しい姿と不思議な力で、崩壊寸前の自軍を勝利に導き、